

ユネスコ世界ジオパーク国内推薦及び
日本ジオパーク新規(エリア拡大)認定審査結果

日本ジオパーク委員会

日本ジオパーク委員会は、8月に現地調査を行った1地域のユネスコ世界ジオパーク国内推薦及び再認定と1地域の新規(エリア拡大)認定の可否について審議し、以下のとおり決定した。

ユネスコ世界ジオパーク国内推薦見送り：南紀熊野ジオパーク

日本ジオパーク再認定：南紀熊野ジオパーク

日本ジオパーク新規(エリア拡大)認定：霧島ジオパーク

現在、日本ジオパークは46地域である（うちユネスコ世界ジオパークは9地域）。

ユネスコ世界ジオパーク国内推薦見送り

日本ジオパーク再認定

南紀熊野ジオパーク

ジオパークセンターが開館し、地域やガイドの拠点となっており、JR西日本と連携した広報や旅行列車などの新たな企画が展開された。最新の研究成果を反映したツアーも実施されている。しかし、ユネスコ世界ジオパークとしては、地質遺産の国際的な価値の共有が不十分であり、管理運営体制の改善も求められる。また、ジオパークと世界文化遺産やラムサール条約登録湿地との相乗効果を生み出せていないなどの課題がある。

以上のことから、南紀熊野ジオパークのユネスコ世界ジオパーク国内推薦については見送り、日本ジオパークとしては再認定とする。

日本ジオパーク新規認定

霧島ジオパーク（エリア拡大に伴う新規申請）

20を超える火山が折り重なり、複数のカルデラ盆地が隣接している。構成自治体に湧水町を加え、5市2町の全域を含めたエリア拡大によって霧島ジオパークの多様性が高まった。また「火山活動に合わせた持続可能な地域づくり」を目標に、近年の火山活動に関する情報を発信しながら、自然体験を取り入れたジオツーリズムの開発や、地元機関や事業者との連携も順調に進めている。運営体制が強化される見通しも立ち、地域ぐるみのジオパーク活動の推進が期待できる。

以上のことから、日本ジオパークとして認定する。

以上